

「未完の近代化プロジェクト——現代韓国における キリスト教と巫俗の摩擦に関する研究」

松崎 遼子（人間科学研究科 人類学）

キーワード：迷信打破運動、プロテスタント、巫俗、民俗ノリ

調査期間：2008年9月1日から10月31日までのうち、54日間。

調査地：大韓民国ソウル特別市、京畿道仁川市、安城市、安山市、二川市、江原道江陵市、忠清南道扶餘郡、太田広域市

主旨と目的

本研究の目的は、韓国における民間信仰である巫俗と、外来宗教であるキリスト教との間で生起している葛藤を観察し、対立軸を鮮明に描き出すことである。

韓国では1970年代に近代化政策の一環として「迷信打破運動」が行われた。これは過去のものとして語られがちである。しかし、この運動は決して収束したわけではなく、キリスト教信者（主にプロテスタント）が担うようになった。そこには思想的なズレが存在する。また、従来の研究では被抑圧者として受動的に描写されがちであった、民間信仰や、民俗ノリ（民俗芸能）に関わる側がキリスト教徒に対抗して、建物の破壊行為を行うなど積極的な示威運動を行う例があった。

巫俗とキリスト教の対立は、韓国における近代化政策、ナショナリズム、経済政策、観光政策などが関連することで複雑な様相を帯びている。これらが絡み合った状況を論理的に説明する第一歩として、本調査ではキリスト教団体と巫俗人を対象にした聞き取り調査を行った。

調査対象

- 1) ソウルとその近郊での調査（文献調査およびインタビュー中心）
訪問機関：ソウル大学校社会科学大学、国立中央図書館、福音伝道団迷信打破運動本部
インタビュー：牧師4名、巫俗新聞社編集局長、牧師4名、巫俗人1名、
その夫1名、楽士2名。会社員2名、主婦1名
参加行事等：知人宅に滞在（1ヶ月強）し、親戚・家族の集まる旧盆にも参加
京畿道安城市にてクッ準備の手伝い
京畿道およびソウルにて『巫俗人ニュース』配達手伝い
京畿道安山市にてクッ見学、ニュース写真撮影補助
知人宅に滞在（1週間）
TNO教会の日曜礼拝に参加
- 2) 江原道江陵市での調査（インタビュー中心）
訪問機関：端午祭博物館、関東大学
インタビュー：江陵ラブキリスト協会所属牧師、江陵端午祭委員長、
江陵民俗踏査会メンバー
参加行事等：江陵民俗踏査会会合

3) 扶余郡とその近郊での調査

(インフォーマルインタビューおよびイベントへの参加中心)

訪問機関：韓南大学校

市内知人宅に滞在（2週間）し、調査地へ通う

インタビュー：牧師3名、民俗ノリ創始者1名、民俗ノリ人間文化財1名

インフォーマルインタビュー：教会子供センター教師2名、農家女性3名、
商店女性1名と客数名ほか、民俗ノリ参加者

参加行事等：民俗ノリ練習見学

百済文化祭見学

民俗ノリ競演大会（京畿道富川市）見学

扶余郡人間文化財伝承者会議見学

収集データ

1) 現代韓国における「迷信打破運動」

- ・ キリスト教原理主義者による、巫俗に限らない民間信仰・慣習への攻撃とその根拠
- ・ 70年代近代化政策との関係
- ・ 牧師の語る、神秘主義と科学主義
- ・ 宣教運動・改宗運動としての迷信打破運動
- ・ キリスト教指導者の全国的活動

2) プロテスタントと諸宗教の関係

- ・ 儒教との対立：チェサ問題他
- ・ 仏教および巫俗との対立：三千宮女鎮魂祭の事例
- ・ カトリックとの微妙な関係（対立、融和）
- ・ 民間信仰との関係：長柱、十二支神像破壊、祭壇破壊等
- ・ プロテスタントに対する非プロテスタントの見方

3) プロテスタントと民俗ノリとの関係

- ・ タンジャッキノリの変遷と暴力事件の事例他
- ・ 扶余郡の公式見解：文化政策と阻害要因としてのキリスト教
- ・ 村人の解釈

4) 巫俗人カテゴリー：キリスト者が見る巫俗と一般人が考える巫俗のズレ（扶余）

5) 巫俗人のネットワーク、全国組織化：巫俗新聞社の全国展開、巫俗人の海外公演

成果

1) 迷信打破指導者の価値観には、「迷信」に対するふたつの極が共存している。すなわち、「科学」や「近代性」への信頼と、真の宗教としてのキリスト教とである。2) 現代の迷信打破運動の特色は、キリスト教徒による宣教運動および改宗運動としての色合いが強いことにある。3) 民俗文化を再興させようとする風潮の中で、キリスト教徒とそれ以外の人々の「民俗芸能」観において、葛藤が生じている。